



プロバスだより

第277号

2018年12月13日

発行

東京八王子プロバスクラブ

創立 1995 年 10 月 18 日

編集・発行：情報委員会

2017～18年度 テーマ

語り合おう！そして楽しく豊かなクラブライフを！

第 277 回例会

日 時：平成 30 年 11 月 8 日(木) 8:50～17:00

場 所：野外研修・車中例会

出席者：41 名 出席率 67.2%

(会員総数 62 名 休会 1 名 欠席 20 名)



1. 開 会

池田例会委員長

11 月例会は野外研修のため、車中で第 277 回例会を開催する旨を伝え、配布資料を確認。

2. 会長挨拶

馬 場 会 長

お早うございます。本年も立冬を過ぎました。例年なら木枯らし 1 号も吹いた後の頃でしょうが、暖かい日々が続いています。会員の皆様に置かれましては、油断することなく、冬に向かっての準備を怠りなくお願いします。

会員関連では、先ず矢島一雄会員が地域活動に関して、10 月 1 日に「東京都功労者表彰」を受けられました。遅くなりましたが祝意を込めてご紹介申し上げます。また、佐々木研吾会員が 10 月 25 日頃転倒により入院されました。幸い経過は良好で 11 月 6 日にはリハビリ施設に移られました。更に渋谷文雄

会員も入院され本日は欠席となっています。お二人の早い復帰を祈りたいと存じます。

最後に、米林伸恭会員ですが、ご子息から 9 月下旬に逝去されたとの連絡を受けました。誠に残念ですが 12 月例会で黙祷を捧げたいと存じます。この結果会員数は 62 名、内 1 名休会となりました。

今年の野外例会は最近に無い盛況ぶりで、いわば“八王子を見直す”研修会の今年は“大学編その 1”ともいうに相応しい魅力ある企画によるものと感謝し感服もしているところです。全員で学びかつ楽しみましょう。

3. 各委員会活動報告

(1) 例会委員会

池田委員長

本日の出席者は 41 名、出席率 67.2%

(2) 情報委員会

持田委員長

①プロバスだより 276 号を配布いたしました、今月号は東山会員の編集担当でした。志村高会員、東山榮会員からの寄稿を頂きました、ありがとうございました。

②HP への 10 月 1 か月間のアクセス回数は 245 回でした。この数か月間 250 回前後で推移しております。内容をより充実させることで、HP をより魅力あるものにしていくつもりです。

(3) 会員委員会

岡本委員長

①会員状況報告として、渋谷文雄会員が病氣療養中であること、また佐々木研吾会員が怪我でリハビリ中であり、早く回復され元気に戻って頂きたいと思っています。

②病氣療養中で有りました

が米林会員が 9/22 にご逝去されたことを残念ですが、報告致します。ご冥福を祈ります。



(4) 研修委員会

有田委員長



①野外研修について、41 名という多くのご参加をいただき感謝します。当初は47名の申込みがありましたが体調不良等で6名のキャンセルがありました。「今、八王子の大学がおもしろい！」をテーマとし

た今回の野外研修を存分にお楽しみください。

②杉山会員より自主学習会 八王子「老年研究会」第2回の案内があった。

- ・日時：11月20日（火）15時～16時30分
- ・会場：八王子大横保健福祉センター
- ・テーマ：「福祉政策の展開 ～住み慣れた地域で暮らし続けるために～」
- ・講師：八王子市高齢者福祉課 主査 辻野文彦 様
- ・参加費：一人200円

(5) 地域奉仕委員会

一瀬委員長

カリキュラムと日程が確定し印刷の準備作業に入っています。八王子市および八王子市教育委員会の後援を申請しておりましたがこのほど認可されました。また広報「はちおうじ」の1月15日号に当学習サロンの紹介記事が載る予定です。先ほど東京工科大学のナノ



バイオテクノロジーセンターを見学しましたが今度の赤池先生の開講式特別講話はまさにこの分野のお話です。山中教授らのiPS細胞などそのままでは再生医療に結び付きません。細胞同士をいかに引っ付けて組織臓器に育てるのか この土台（細胞用まな板）の開発をされており興味あるお話が聞けるものと思っています。

(7) 宇宙の学校

下山Pリーダー

10月と今日までの進行について報告します。

- ・10月13日 都立北高校会場での第3回のスクーリング
- ・10月21日 東京工科大学会場での第3回スクーリングが台風により早退したための補習

・補習テーマ（飛ぶ種）

・講演「宇宙の話」、

JAXA 清水先生

・家庭学習発表会

・閉校式

終了賞授与は教育長多忙のためプロバスクラブ杉

山会員・副実行委員長が終了書を授与代行しました。

工科大学会場の今年度は終了しました。

- ・10月28日 教育センター会場第3回スクーリング
- ・11月3日 都立北高校
- ・講演「宇宙の話」、KU-MA会長並木先生
- ・家庭学習発表会
- ・閉校式 でした。



家庭学習成果発表会



安間教育長の挨拶

4. 同好会活動報告

・お茶同好会

有泉裕子会員

10月28日 2回目の出前講座として台町市民センターでお茶会を開催。大勢のお客様が美味しいお菓子とお茶を楽しんでくださいました。

今年はお手前もニューフェイスがデビューしましたので、これからのお稽古、来年のお茶会が楽しみです。



出前講座のお点前

5 閉 会

飯田副会長

本日の移動例会お疲れ様でした。身近なところにこのような素晴らしい大学があるとは驚きでした。



いろいろとお勉強させていただきました。

今日一日大変充実した有意義な日を過ごすことができました事に有田研修委員長、池田例会委員長に感謝申し上げます。大変お疲れ様でした。

皆様にはどうぞ足元にお気を付けてご帰宅くださいますように。

野 外 研 修 報 告

八王子の魅力を再発見した野外研修でした！

研修委員会委員長 有田進治

今年の野外研修は、「今、八王子の大学がおもしろい！」のテーマのもと、11月8日に41名の参加を得て実施された。当初は47名という沢山の申込



野外研修の出発前

みがあったが、その後、体調不良などの理由で6名のキャンセルがでた。

当日は、天候にも恵まれ、八王子駅南口を定刻の8時50分に大型観光バスで出発。最初の訪問先である東京工科大学に向かった。車中で馬場会長から「今回の企画は、昨年に続き八王子の魅力を再発見する研修であり大いに楽しもう」と挨拶があった。

大学に到着すると、スタッフの方々が片柳研究棟の玄関前でお迎えくださり、すぐに最上階の16階バ



東京工科大 16 階からの八王子市街の眺め

ンケットルームに案内された。(一般公開はしていない) そこからの 360 度の素晴らしい眺望には、会員



東京工科大学の片柳棟前で

から思わず歓声が湧き起こった。

大学側から歓迎挨拶を受けた後、メディアテクノロジーセンターなどの最先端の研究室を見て回っ

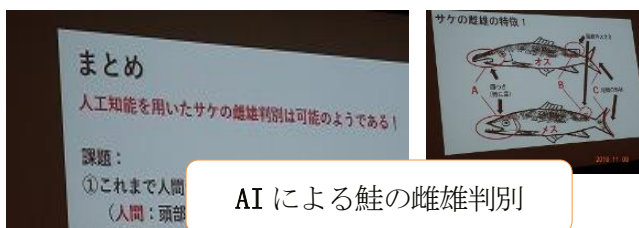
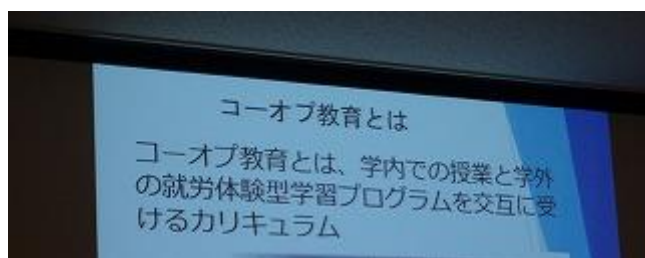


最先端の実験室

た。見学後、当大学が標榜する実学主義の取組みの一つである産学連携による「コーオプ教育」について説明を受けた。また、「人工知能を用いた画像判別による鮭の雌雄判別」と題しての講演があり、人工知能の応用分野の広さと重要性を再認識した。



産学連携
の説明



AI による鮭の雌雄判別

その後、日本閣に向かい、そこで美味しい会席料理をいただきながら、11月例会を行った。

昼食後は、美しく紅葉し始めた庭園で三々五々の散策を楽しんだ。



日本閣での例会



日本閣の会食



日本閣の庭園

次の訪問先は、東京純心大学。正門から会場の江角記念講堂までは500mの坂道があるため、足に自信のない方には、会員が用意した車両で送迎した。

会場で早速、大学の概要説明を受け、その後、酒井多賀志客員教授からパイプオルガンについての解説と演奏をしていただく。このパイプオルガ



酒井教授（左）

ンは、酒井氏が自ら設計監修されたもので、カナダ製で2,030本のパイプを有し、全ての笛（パイプ）が良く溶け合って、その柔らかな響きに特徴があるとのこと。



当日は、J.S. バッハのトッカータとフーガ ニ短調や酒井氏作曲の瞑想的即興曲「流離」（SASURAI）などを演奏していただいた。オルガンの重厚感ある荘厳な響きに、会員の多くから「素晴らしい！感動した！」との声があがった。演奏後、教授の案内で



パイプオルガン演奏とその仕組み Q&A

楽器の内部に入り、パイプオルガンの構造とパイプの鳴る仕組みの説明を受けた。個人では、なかなかできない貴重な体験ができ、会員は興味津々で大満足の様子でした。

3番目の訪問先は、創価大学。現在、キャンパスのグローバル化に取り組み、海外から850名の留学生を受入れている。最初に東京ディズニーランドの



約1.8倍の広大なキャンパスをバスで巡り、そのあと本部棟で大学創立者の建学理念の説明を受けた。引続き他大学からも注目されているSPACEの取組みを見学する。このSPACEは、学生や留学生が各自の考えや経験を活かし、互いの学びのサポートをしあう場所で、当日も、多くの学生が海外留学生と英語



池田記念講堂前

でコミュニケーションをしている場面をいたる所で目にした。引続き、池田記念講堂前で全員での記念撮影をし、講堂内部に入った。かつては東洋一という4,000人の収容能力を誇る講堂を目の当たりにし、余りの巨大さに声を呑む者も多かった。

最後は、**東京富士美術館**での「ロシア絵画の至宝展」の鑑賞です。最初に同館の白根学芸員から今回の展示作品の見どころにつき解説を受けた。また、絵画を鑑賞する際は、その時代の歴史や、宗教、風習、価値観などといった背景を理解すると一段と作品への理解が深まるとのアドバイスがあった。今回の展示作品は、国立ロシア美術館の所蔵品の中から、「夢」「希望」「愛」のテーマのもと、ロシアの風景や庶民の生活に焦点を当てた40点の優品が選ばれ、ロシア美術の深い精神性に迫るものばかりで、会員は時間の許す限りじっくりと絵画に見入っていた。



白根学芸員



アイヴァズフスキー《第九の怒涛》1850年 221×332cm 国立ロシア美術館蔵

予定の4ヵ箇所の見学を滞りなく終え、17時前に美術館を後にし、バスで八王子駅北口への帰途についた。車中、飯田副会長から「私たちの身近なところに、こんなに知的好奇心を満たしてくれる興味深い所があったことは新発見であり非常に有意義でした。」との締めめの挨拶があった。

今年の野外研修は、最近の会員の高齢化に鑑み、昨年に続き訪問先を八王子周辺にしぼり、参加者の時間的拘束、体力的負担を少しでも軽減しようと企画した。昨年は、企業訪問に的を絞ったが、今年は八王子周辺に沢山存在する知的刺激に溢れる大学という

リソースに着目して、その中でも特徴ある3大学を選定した。また、少しでも多くの参加を募るため、大学側に個人では見学できないところまで見せていただくよう協力要請した。幸い大学側からは、プロバスクラブということで格別のご配慮をいただいた。今回の野外研修で、参加者は大学の知の最先端現場に触れることができ、また美しい音楽あり、絵画鑑賞あり、美味しい料理ありで、まさに楽しさ満載で、大いに満足されたものと思われる。馬場会長の挨拶にもあったように、今後の野外研修は、「八王子の魅力再発見シリーズ」と銘打って続けるのも一案かと考える。まだまだ八王子には私たちが知らない魅力が沢山ありそうだ。

最後に、今回の野外研修を実行するにあたり、快く見学をお引き受けいただいた各大学、また大学との受入れ折衝に尽力していただいた会員、更に、面倒で地味な準備を気持ちよく引受けていただいた研修委員会メンバーに厚く御礼申し上げたい。

全日本プロバス協議会第8回総会三重大会報告

立川 富美代

2018年11月28日第8回目の総会が、三重県四日市市都ホテルにて開催されました。全国33クラブ、205名の参加で、各報告は審議もなく全員で無事可決をされました。6年間勤められました中村会長・森山幹事長は退任、立川も16年務めました副会長を退任いたしました。次期は北九州の古賀会長・松本幹事長が2年間の任期で受け持ちます。

会費改正で、1クラブ1年3,000円を10,000円に決定いたしました。

懇親会は三重県知事・各市長参加で、お国ぶりの発表で盛り上がりました。次期2020年の第9回総会は、青森県五所川原で開催です。

第39回いちょう祭り成功裏に終了

いちょう祭り祭典委員会副会長 岡本宝蔵

第1回八王子いちょう祭りは市民による市民のための手づくりのイベントとして1979年(昭和54年)に開催されました。それ以来歴史を重ね今年は39回目となり、いちょう並木90年の記念行事として開催されました。当日は心配された天候でしたが、11月

17日(土) 24万人、18日(日) 28万人 合計52万人の
たくさんのご来場者を迎えることができました。

今年も例年通り、東京八王子プロバスクラブの



方々と関係者の皆さま方、そして1万人以上のボランティアの皆さまのご支援と協力を賜りました。また、警察署、交通安全協会、保健所、消防署のご指導のもと、出店者や参加者の協力を得まして、大きな事故もなく無事に運営でき、安心安全なお祭りの開催ができましたことに深く感謝申し上げます。

また、当クラブの戸田弘文会員(追分町会長)が今回のいちよう並木90年記念式典にていちよう祭り祭典委員会から表彰されました。これは委員会がいちよう並木を長年にわたり守り育て、景観の維持に尽力された沿道の方たちと町会へ感謝を表したものです。現在のいちよう並木は昭和2年～4年にかけて



甲州街道沿いに770本が植樹されました。以来日々変わりゆく八王子の街を見守りながら、四季折々素晴らしい風景を演出してくれております。

秋にはとても美しく黄葉し、いちよう祭りに最高の舞台を演出してくれます。

今後とも八王子いちよう祭りへの変わらぬご支援、ご協力をお願い申し上げます。

会員活動報告

シニア・ダンディーズの今期の活動及び予定

—2018年—

7/7 セタコンサート 老人施設 檜の里

10/27 八王子市生涯学習フェスティバル

クリエイトホール

11/4 文化祭コンサート

老人施設 ウェルハイム八王子

12/15 クリスマスコンサート 老人施設 檜の里

—2019年—

1/10 プロバスクラブ新年会

1/27 八王子商店連盟あきんど祭り

オリンパスホール

5月 プロバスクラブ さよならパーティー

9月 八王子交通安全大会 いちようホール

(2019年度の慰問訪問演奏は未定です)



「東京タワー」と私

～建設当時の原風景を懐かしむ～

飯田 富美子

今やタワーと言えば634メートルを誇る「東京スカイツリー」に代わっているようですが、私にとっては今年12月開業60年、昭和のシンボルを誇る「東京タワー」は忘れられない思い出のタワーとなっている。私の青春時代はここから始まったと言っても過言ではない。

1958年4月、大学入学と同時に東京芝公園での下宿生活。下宿と言っても芝公園の中で大学から5分の戸建2階6畳間と4畳半和室が私のちょっと贅沢な下宿部屋となっていた。東京のど真ん中、銀座に

近く「そごう」「松坂屋」「松屋」等、上野では「赤札堂」が私の東京での買い物の原点。有楽町の映画街ピカデリーでの「太陽がいっぱい」「風と共に去りぬ」など…。喫茶店では「ルノアール」、銀座4丁目のスナックなど…。懐かしい思い出の1頁です。

昼でも鬱そうとしている裏山の紅葉台を散歩するのも日課の一つ。散歩の途中で大きな建設現場を



覗く。それが私のテレビ塔との最初の出会である。その後多くの作業員が建設現場へ出入りし、急ピッチで高くなっていく塔の雄姿に驚きと感激を覚えたものです。とび職が何人も細い鉄骨の上を荷

物を担いですいすいと走っていく。さらに高くなるにつれとびの職人は小さくチイサク・・なり完成が近づくと豆粒位で蟻のように動いている。台風時は、ゴーゴーとタワーが倒れそうな音がして怖くて眠れない夜もあったがついにその年 1958 年 10 月に「東京タワー」と命名され 12 月には 333 メートルのタワーの完成式が行われた。その後学友たちと昼休みにはタワーへ何度も階段で昇り東京の景観を楽しんだものだ。後になってタワーの設計者がタワー博士の内藤多仲氏、建設会社が日建設計㈱であることを知った。内藤氏も日建設計の会長葉袋氏も母校の大先輩であり我々に大きな夢と希望を与えてくれ、その功績は大きな誇りでもある。

今年の夏休みの終わりに、久々に小学生の孫と東京タワーに昇った。展望台からの眺望は富士山も東京の街も眩しいくらいに美しく、平和な日本で生きる幸せと有難さをしみじみとかみしめた一日でありました。

「東京タワー」開業 60 年記念 万歳！

俳句同好会便り

私の一句～十一月の句会から

河合 和郎

俳句同好会は 11 月 20 日に吟行会に出向いた。場所は山梨の山盧邸。飯田蛇笏・龍太の生家であり、昨年、敷地内に復元された「俳諧堂」で句会を実施した。同行のメンバーは六人。少人数ながらぴりっと締まった吟行会であった。俳諧堂の句会には、それぞれの力作が披露され、充実した一時であった。

山盧の後山の丘からは、甲府盆地や甲斐の山々が一望でき、特に北アルプスの初冠雪の遠望が素晴らしかった。山盧邸の庭には樹齢 400 年の赤松が見事な枝振りを見せ、折しも庭師が「松手入れ」の最中であり、良き句材料に出会えたひと時でもあった。

木洩れ日を求めて鳶の紅葉かな 矢島 一雄

山盧の後山には竹林があり樺の大樹が天を覆っている。そんな大木に挑む鳶紅葉が色鮮やかに。

なつかしき地となりて今冬山盧 池田ときえ

山盧の雰囲気が何よりという作者は「山盧文化振興会」のメンバー。上五の措辞にその思いが。

句会終へ山盧の松に夕しぐれ 田中 信昭

山盧邸の庭の主ともいえる樹齢四百年余の這い松。句会の緊張から解放された作者の安堵感が。

柿すだれ山盧の軒は輝けり 飯田富美子

山盧邸の軒下には吊るし柿が揺れていた。訪れてまず目に入った景をしっかりと一句にまとめた。

山あい煙一条小春の日 馬場 征彦

甲府盆地が一望できる山盧の背山の丘に立って、農作業の煙の上のを見た。牧歌的な景を一句に。

病床の窓一杯に鰯雲 渋谷 文雄

残念ながら吟行会には参加できなかったが元気に退院された由。鰯雲に詞心を託して無聊を慰める。

松手入れ四百年の風のみち 河合 和郎

樹齢四百年の老松の持つ圧倒的な存在感。そこには四百年の時空を超えた歴史の風が流れていた。

編集後記：今月は野外研修特集で終わると思っていたが、宇宙の学校、いちょう祭りと話題に事欠かない内容になりました。編集技術がもう一歩で、恐縮しています。 佐々木秀勝